

米子市地方創生有識者会議（第2回）

日 時 平成27年8月6日（木）

14：00～16：10

場 所 米子市役所401会議室

1. 開会

企画課長：失礼します。米子市の企画課の杉村でございます。お世話になります。若干1名の委員様がお見えでないようですが、定刻になりましたのでただいまから第2回米子市地方創生有識者会議を開催させていただきたいと思っております。

2. 新任委員紹介

企画課長：まず始めに8月6日付けでこの有識者会議の委員に改選がありましたので、新任の委員さんのご紹介をさせていただきたいと思っております。本日の次第の裏面に新たな委員名簿をつけさせていただいておりますので、そちらをご覧くださいと思います。委員名簿の備考欄に新任と記載させていただいておりますが、山陰合同銀行米子支店支店長の手島芳郎様に新たにこの委員の中に入らせていただくということになりました。これにつきましては米子支店長様に人事異動がありまして、前任の安喰様から手島支店長様に変更されたということもございまして委員の改選をさせていただくこととしたものでございます。なお本日は所用によりご欠席というご連絡をいただいておりますので、お名前だけの紹介とさせていただきます。

では最初に古賀座長様からごあいさつを賜りたいと思っております。古賀座長様よろしく申し上げます。

3. 古賀座長あいさつ

古賀座長：みなさんこんにちは。先日6月2日に第1回目を開催して2ヶ月ちょっと経ちます。暑い中みなさまご参加いただきましてありがとうございます。

ご案内のとおり事前にお配りされています資料にありますように、市のほうで人口ビジョンについての資料、それから地方創生総合戦略の骨子などがまとめられていまして、現時点での案としてまとめられたようでございます。まずはその内容を市のほうから説明を受けまして、各委員の方から地方創生の取組に関して具体的な提案などをいただきたいと思っております。本日ご欠席されている方もいらっしゃるようですので、もう1回、来週の8月12日に開催を予定しておりまして、この2回の開催を以って私達有識者会議としての提案を総合戦略に反映できるように、皆様からご意見をいただきたいと考えております。本日は皆様のご立場からのご発言、一市民としてのご発言などをいただきましてぜひ自由闊達なご意見をいただいて有意義な場とさせていただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは引き続き進行にご協力のほうよろしく申し上げます。

企画課長：古賀座長様どうもありがとうございました。早速ではございますが、議事のほうに入らせていただきたいと思います。議事進行につきましては古賀座長様にお願いしたいと思っておりますのでよろしく願います。

古賀座長：では改めまして議事次第に従いまして会議を進めさせていただきたいと思えます。議事に先立ちまして、第1回の会議でご欠席でありました鳥取銀行米子支店支店長の山上恵吾様に一言ごあいさつをいただきたいと思います。

山上委員：みなさんこんにちは。鳥取銀行米子支店で支店長をしております山上でございます。第1回目の会議から欠席いたしまして大変申し訳ございませんでした。

私米子支店に支店長として参りましてちょうど1年になりまして、出身も米子でございましていろいろ思うところもございまして。それから銀行ということで、この地方創生という言葉がでてきてから特に銀行の中でもいろんな金融面のご支援ができるということで一生懸命やっているところでございまして。私は現場の人間ですので、特に産業界・経済界などいろんな会社の社長さんと日々接しておりますので、そういった意見も取り入れながら、この有識者会議で何かお役に立てることがあれば幸いであるというように考えています。どうぞよろしく願います。

古賀座長：山上委員さんどうもありがとうございました。

4. 議事

(1) 米子市の地方創生への取組に係る現時点での方向性について

古賀座長：それでは議事に入りたいと思えます。

まず議事の1番目といたしまして、米子市の地方創生への取組に係る現時点での方向性について事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料に沿って説明)

古賀座長：どうもありがとうございました。只今の市からの人口ビジョン、それから現在とりまとめ中の地方創生に関する具体的な戦略の骨子に関しまして何かご質問ご意見はありませんでしょうか？

井上委員：骨子の方には観光分野の記載はしてあるんですが、資料1の政策Ⅳ（広域連携）の助け合いみんなで伸びるまち、こちらの方にもうちょっと観光分野の部分を工夫されてもいいのかなと、資料1で見るとその部分が欠けているのかなという感じがします。骨子のほうでもシーツ-サミット

が記載されているんですが、人をいきなり増やすっていうのは難しいので、観光客にいかにか滞在していただくということですね。観光分野をどのように活かしていくのかということだと思いますけど。

古賀座長：ありがとうございます。井上さんのご意見では資料1と具体的な施策の関連付けをまずははっきりさせることと、観光分野についてももう少し具体的なものを検討すべきということによろしいでしょうか？

井上委員：もう1点よろしいでしょうか。

観光分野の中で、この米子城、湊山球場について、史跡にするのか鳥大医学部さんとの話し合いがあるのかということも漏れ伝わってきていますが、こういった分野もこの中に記載していかないと、米子市の中心市街地のこれからのポイントとなる分野でありますので、私ロープウェイでも架けれないかなとも思っているんですが、今議会の方でも議論が進められていると思うんですが、一度史跡にしてしまうと後はどうこうできませんので、その有効活用という意味で、ここは骨子の中で触れなければいけない部分だと思います。

古賀座長：ありがとうございます。事務局の方から何かありますでしょうか？

企画課長：政策分野Ⅳの広域連携の部分について、観光等の具体的な施策を記載いただけなにかということですが、実際は今、鳥取県西部圏域につきましては、鳥取県西部地域振興協議会というのがありまして、こちらの方で広域観光部会と移住定住部会というのを組織しています。この中で政策分野Ⅳに対する広域連携による地方創生の取組を具体的に検討中でございます。従いまして今日の段階では具体的なものは載せていませんが、成案としては具体的な施策を載せていきたいと思っております。それから中海・宍道湖・大山圏域につきましても同様に市長会の方で検討しております。5市でどういった事業をやるかというものを最終的に詰めていくという段階でございます。これにつきましても骨子の段階では具体的なものを載せてはおりませんが、当然5市でこれをやっていこうということになれば、具体的な施策として成案の方に盛り込んでいきたいと思っているところでございます。この市長会の取組は、産業振興であるとか、観光振興、環境の充実、圏域の連携の強化ということで、これまでも様々な事業に取り組んでいまして、そういったものをベースとしまして当然そういった施策の継続を含めまして新たな施策も盛り込んでいきたいと思っているところでございます。また決まりましたら有識者会議の皆様にもご紹介、ご説明をさせていただきましてご意見を賜りたいと思います。

米子城というのは観光においても市のホームページを見ていただきますと、1つの観光名所、観光ポイントと位置付けております。史跡公園等々の話も出ておりますが、観光につきましてはいかに観光資源を有効にPRしていくか、活用していくかという視点が当然必要だと思います。これまでの観光施策に含めまして今の米子城のところをどう扱っていくかということにつきましては、今後内部で検討すべき内容かなと思っています。

永瀬室長：湊山球場についてのご発言がありましたが、教育委員会でいろいろご議論をいただいている中で、今のところはとりあえずは史跡の追加指定に向かうということを聞いています。今後の展開としては、鳥取大学さんにもグランド利用をしていただくことも含めて、関係者で続けて協議している様でございます。今後の展開で大きく何かこれを資源として何か打ち出していくような、議論が深まっていくようなことであれば地方創生に載せることができるんですけど、今議論をいただいているところでございますので、今の段階でこちらの方で位置づけを図っていくとかという状況には今のところないという状況です。

古賀座長：ありがとうございます。その他何かありますか？

中西委員：資料3の骨子の概要で11ページのところに、私農業団体としてご意見を申し上げたいと思います。9番の農業の多様な担い手づくりの中に3点載っております、具体的な表現が出ていますが、①移住定住を伴う就農に対する総合的支援という言葉になっています。これはすでに予算化されて先行型で取組をされるという内容なんですが、これは移住定住を伴う就農者に限られた施策であるのかということが1点。特に新たに就農するには農地のほか、農業機具など多額の資金が必要になるというのが実状です。実際にはどのくらいの移住定住を伴う就農者を想定されているのかというのを伺いたいと思っています。やはり農業は高齢化の中で減少しているところ、担い手対策というのは私共JAとしても大きな課題として考えております。もちろん新規就農者のほかに定年者とか女性農業者も多くおられまして、今後農業の担い手として期待ができるものと思っています。特に定年後の農業者の方につきましては、農地とか農業機械とか代々引き継がれた環境がございまして次の担い手として特に期待ができると考えております。そういう意味で米子市の農業を考える中で、この移住定住を伴う就農だけに限定するのではなく、就農に対する総合的支援ということで、多様な担い手を含めた施策に取組むという表現にするべきと思いました。今JAグループのほうで、次の計画の中で特に圏域、もちろん西部地区でも特にこの担い手対策として農業サポートセンターの設置というのを計画をしまして、米子市はじめ行政の皆さんと一体になった支援が必要と考えているところですので、この辺の中身をもう少し夢があるような内容にさせていただけたらなと感じました。

それから3番目の食農教育ですが、小中学生に対する農業体験機会の提供ということで、表現は小中学生に限定されています。今のこのたくさんの食料がある中でこの小中学生だけでなく、高校生とか子育て世代とかの皆さんに地元の農産物とかそういったところをPRする必要性があると考えています。今後も食農教育、農業体験というのは私共のJAのほうでも取り組んでいきたいんですが、例えば教育委員会のみなさんとか、PTAの方々との連携とか、そして子育て世代のみなさんの支援をいただきまして、将来の米子の地元の農畜産物の将来の消費者となる子ども達に対する農業理解に取り組んでいく必要性があると考えます。今現在、小中学生につきましては、子ども対象アグリスクールをやっていますし、出前授業ですね、例えば白ねぎの給食のときにそちらに出向いて行ってそういうこともできると思います。高校生の皆さんには、料理コンクールなどの取組をされていまして、授業へ農産物の提供もできると思います。それから子育て世代の皆さんには、地産地消料理教室とかそ

ういった取組もできると思います。特に米子市のイメージキャラクターなんですけど、白ねぎということがありましてヨネギーズがイメージキャラクターになっていますけれど、小学生でも3年生を中心に白ねぎの勉強に来ていただいたりしておりますし、それから教育資材をそれぞれ提供させていただいております。今後は積極的に行政の皆さんと連携して地元の次の子ども達、あるいは子育て世代の皆さんに、農業への理解とか農業体験とかそういった場を提供できると思っておりますので、もう少し限定するのではなくて、幅広い取組ができると思いますので、その辺の意見を言わせていただきました。

古賀座長：ありがとうございました。まず1点目のご指摘ですけど、移住定住を伴う就農に対する総合的支援に関して、移住定住を伴う就農だけではなくて、定年された後農業に就きたい方、あるいは女性の方なども対象になりうるのではないかと。

それから③の小中学生に対する農業体験機会の提案という部分に関しましては、多くの世代にも理解していただいて、農業に対する理解と協力を得られるような施策にすべきだということで、アグリスクールとか料理教室などのご指摘がありました。これに対して事務局から何か発言はありますでしょうか？

農林課長：今おっしゃられた①の移住定住を伴う就農に対する総合的支援ということで、本来その担い手の育成ということは、元々米子市の今後の農業を考えた上では、多様な担い手を育成していかなければいけないということで、いろんな事業をやってきております。今回、移住定住を伴う就農ということで地方創生の中で挙げさせていただいた部分は、移住定住される方が米子に来られて、サポートが必要な部分があるんじゃないかということで、上乘せのところでこの支援を考えているところがございます。担い手の育成はおっしゃられたとおり、今後の農業を考える上で非常に大切なこととして普段やっているもの、プラスアルファとして移住定住者への支援というのを捉えております。

③の小中学生に対する農業体験機会の提供ということで、JAさんのほうで多方面に渡ってやっておられることは承知しております。米子市におきましては、今の農業に関わる子ども達というのが、昔のように周りに田んぼや畑が周りがあるわけじゃない中、農業に携わる経験が少ないということ、食育の関係とかからも、そこるところに力を入れていかなければならないということで、小中学生という言葉を入れていますけど、おっしゃられるように子育て世代にしても、いろいろ多方面の方が農業に携わること、農業体験をしていくということは、今後の人間社会の中で生活していく上で非常に重要なことですので、具体的な事業としてまだやっていませんので、今後検討していきたいと思っております。

古賀座長：ありがとうございました。そうしますと、①に関しては定年者とか女性とかそういった人には既に支援をしていて、追加の支援として移住定住を伴う就農者に対する支援は地方創生の中で盛り込んでいきたいということによろしいでしょうか。

農林課長：まず①の方では農業を生業として生計を立てていく人に対しては、国の制度では45歳未満の方というのを限定的に支援が厚くなっています。45歳を超えて就農、農業される方、定

年されて起農される方もおられます。ここでは移住定住ということにしておりますが、その部分も含めて国事業で不足しているところを補っていかうということです。

古賀座長：ありがとうございます。

中西委員：今の説明で大体分かりましたが戦略の表現として、果たして移住定住者だけでいいのかということを若干思ったところですので、市の方で整理されているということですので、見る限り分りにくいかなと思いますので、少し検討いただけたらと思います。

ありがとうございました。

古賀座長：その他ありますでしょうか。

前田委員：資料3の10ページの3創業事業承継への支援というところで1点検討いただければと思うんですが、創業支援を実のあるものにしていただければ、私も創業支援を60年以上やっています、ひとつ気づきに至ったのが、大人になってからこれから創業しますという方への相談を受けるだけでは、なかなか結果ができません。それよりも小中高校の学生さんの段階から企業家教育を施していくと、こういった視点が非常に重要ではないかと考えます。創業支援の取組の中に小中高校段階における企業家教育の推進といったようなものをできれば一文盛り込んでいただいて、私も政策公庫や地域の金融機関様や商工会議所様が参画しやすいような場づくりなようなものにご尽力いただけますと、非常に幸いですのでご検討いただけたらと思います。参考までに私2月に小学生相手に融資稟議書を書いてもらう体験学習をやってもらったり、今週は米子商工会議所様主催の高校生向けの創業ビジネスゲームというのに協力しまして、実際に事業を起こすとはどういうことか、という体験授業をやっていただいたんですけど、非常に学生さん達は熱心に取り組みまして我々思いもよらないようなアイデアを發揮されておりました。こういうようなことをまだ学生の段階から、社会で生きるとはどういうことなのか、事業を生み出すとはどういうことなのか、そして成功するとは、失敗するとは、当然失敗も経験するわけですね、そういったものを学校の段階で体験していくということが非常に重要で、地方創生にも貴重な部分になって参りますと思いますので、ぜひともご検討いただきたいと思います。

古賀座長：前田さんありがとうございました。この創業支援ということに関して、もっとも若い世代からこういった教育を行って行って、小中学生の時代からそういう起業家の精神を見に付けていくということが大事なんではないかというご発言でした。

実は鳥取大学医学部附属病院の取組としてやっていますのが発明楽。発明が楽しいと書いて発明楽というんですけども、この取組として小中学生に対してまだ小さいながら出前授業というのをやっております。発明の楽しさというものを学んでいただいて、自ら発想してモノを作っていく楽しさというのを学んでいただくということをやっているんですけど、小・中・高・大学・大学院生・社会人とそれぞれやっ

ていきますと、実は小学生の若い時代ってというのは、とても多感な子ども達が多くいらっやってたくさんアイデアがでできます。非常に目がキラキラしてこれから本当に夢を描いていくんだということで、そういった若い人々にそういった教育をするということは非常に大事ななと感じています。これに関して事務局から何かありますでしょうか。

商工課長：先ほどもおっしゃられたように、先日、商工会議所さんの方で高校生対象の起業の授業をしておられ、そこそこの人数の高校生が集まれたというのは承知しているところです。この総合戦略の中にそういう視点で項目を入れていくかどうかというのは正直まだ検討はしていませんでした。内部の方で検討してみたいとは思いますが、具体的にこの中に取り入れることができるかというのは、今の段階では確約的には申し上げられませんが、その辺はご容赦いただきたいと思います。

古賀座長：前田さんよろしいでしょうか。その他ご意見ありましたら。

齊木委員：私は子育て会議に関わっていた関係で、この会議に呼んでいただいたということだと思います。資料3の13ページのⅢで少子化対策の推進を図りということで、子育て支援ですとか、結婚だとかということが載っています。子育て会議の方でも子育てということで、お母さん達へのサービスや支援ということが検討の大きな中心になってきたんですが、一方では保育士が不足している。保育士への処遇というか、その辺りはどうなんだろうということなんですね。確かに保育のサービスをすればするほど保育士への負担が大きくなってきます。私は養成校に関わっていて、各学年140名ほどの学生が入学してきて、120名くらいが保育士とか、幼稚園教諭の免許を持って卒業していきますし、そのうちの8割くらいは鳥取県内の出身の学生ではあるんですが、就職をして最初の1年、2年は一生懸命頑張るんですが、なかなか本採用に繋がらなったり、就労の様子を聞いてみますと、必ずしも8時～5時の勤務ではもちろんないわけですが、いろんな面での保育士の処遇改善が必要なのかなと。社会福祉協議会が主催する再就職支援セミナーというのがあります。保育士をやっている一旦結婚などの理由で退職したけど、またもう1度保育士として再就職をしたい人へのセミナーが開催されていて、私は2年くらい前からそちらの講師も引き受けているんですが、東・中・西部で行われていて、残念なことに昨年はどこかの会場で、講習を受けたいという希望者がいなかったのを取りやめになったんですね。その受けたいという希望者も3人とか4人とかといった形なんです。その資格の取得をしている人達がたくさんいるんですけど、やはり就労条件とかを考えるとなかなか再就職するところまで踏み切れないのかなというのがあって、そうすると例えばここのI番の安定した雇用を創出しますとか、女性の再就労の支援とか、女性に限らないんですけど、そういうところを理解していくと、ここのⅢももう少しそちらの方も入れていただけるような、検討していただけるような機会があればと思って発言させていただきました。

古賀座長：どうもありがとうございます。保育士の不足、保育士の就労・就職、それからその処遇もいくつか課題があるというご指摘でしたけれども事務局の方からいかがでしょうか？

こども未来課長：齊木委員さんからご指摘いただいたことなんですが、やはり保育士さんへの処遇というのは、最近とても厳しいということは認識しております。この地方創生の中に入れるかどうかにつきましては、またご相談しながら検討していきたいと思っております。

古賀座長：ありがとうございました。実際、再就職する人々は少ないという現状は、そもそもそういった就職自体が少ないから諦めてしまっている人が多いのか、どういった現状があるんでしょうか？

齊木委員：先ほども言いましたように、保育士といっても8時から5時までで終わるわけではなくて、休日保育もあれば、遅くの保育もあつたりということで、それこそお休みもないような形になるんですが、決して就職先がないわけではなくて、むしろ保育所の先生達は保育士が足りないということで求めているんですけど、なかなか就職をするのに本採用に結びつかないということがあつたり、先ほどのような就労条件が若いうちはいいんですけど、だんだん年数が経っていくにしたがってちょっと厳しくなってくるという。

古賀座長：条件が合わなくなってくるということですかね？その辺のところバランスがとれるような施策が可能であれば、そういったことも検討をお願いしたいということですのでぜひご検討をお願いします。その他ご意見などありますでしょうか？

中元委員：ちょっと確認といいますか、今この話し合う場なんですけど、それぞれのスペシャリストの方々がたくさんおられて、いろんな方面から話をされて、見えにくくなってしまっているんですが、この場としては基本認識をみなさんしてくださいと。その中で米子市としまして4本の柱を掲げましたということで、4本の柱についての具体的なことと言いますか、I番だったらしごとを守り生み出す元気なまち「がいな米子」の創生とかですね、こういったことを大まかにみなさん認識してくださいよ、それを踏まえた上で次どうしましょうかという話でよろしかったのかなと思ひまして。もしひとつひとつを話をするのであれば、1つ1つ具体的な解説をいただいてそれについてこんな意見がありますよ、とした方がスムーズに皆さんの頭の整理がつきながらできるのかなという意見です。

古賀座長：ありがとうございます。確かにそうですね、それぞれ各論に移ってしまいましたので、ちょうど次の議題もありますので、基本的な質問ですとか、疑問点に絞っていただいご発言いただきたいと思ひます。その後、何かご提案などあれば、議題2でご発言いただく格好、そして来週にはもう一度同じような機会がございますので、今日お話ができなかったことに対して次回発言をいただくという形で進めたいと思ひますので、そのようにお願いします。では質問はありますでしょうか？

井上委員：資料1の政策の分野でぜひ付け加えていただきたいというのは、交通インフラの充実整備と言いますか、強化と言いますか、ここの分野もやはり都市から山陰に来る時の利便性の強化をど

のように持っていくのか、例えば整備新幹線なのか白備線の複線化なのかそういった部分と、それからスカイマークが全面的に撤退しますので、空の便をどのように確保していくのか、あるいは山陰にお越しいただいた方に山陰を観光されるにあたっての交通網の強化ですよね。例えば市内循環バスの補強ですとか、そういった交通インフラの部分についても触れるべきではないのかなと思っております。この政策の部分なのか分かりませんが、ご検討いただけたらと思います。

古賀座長：事務局からどうでしょうか？

企画課長：交通インフラというのは、国がやる施策あるいは鉄道の部分についても県が所管している部分でして、本市としましては例えば米子道の4車線化、山陰道の整備促進なり中海架橋というのは要望活動に同行させていただいておりますが、市が自ら取り組む事業としては市の総合戦略としてどうなのかという点もあります。それからあと1点、これは絶対ダメだというわけではありませんが、国が今回のまち・ひと・しごと創生法に伴ういろいろな取組をされる時に、国の方ではばら撒きにならないようにハード整備事業については、地方創生の交付金の対象にしないんだということをはっきり言っていると思います。そのところが本当に米子市自ら行う地方創生総合戦略に盛り込むべきかというのはどうかなというところがございます。ただ、中海・宍道湖・大山圏域市長会の会議では、圏域の発展にはそういった高速道路等の道路インフラの充実がやはり地方創生の土台となるんじゃないか、井上委員さんおっしゃいますとおりの意見が出ております。例えば市長会の方では、戦略に盛り込むかどうかというのは別として、積極的にこの地方創生を展開するためには、国や県にお願いしてぜひ道路インフラなり、航空路線の充実なりをやってくださいというような要請活動はしていきたいと思っております。

古賀座長：ありがとうございます。その他議題1について何かご発言ありますでしょうか？

素朴な疑問なんですけど、資料1の中でいくつか書かれています「がいな米子」という、私は米子出身じゃないもので、言葉の意味が分からないもので、この「がいな」というのはどういう意味で、こういった施策の名前としてこういった「がいな米子」でいいのかわからないので、この辺はどうでしょうか？

永瀬室長：事務局からご説明いたします。米子人にとって「がいな」というのは米子弁で「大きい」ということを意味するということはもちろんよく分かっていることで、「米子がいな祭」とか「ガイナレー」の名前の元になった「がいな」という部分とか、なじみが深いところがございます。こういった総合戦略の名称の付け方なんですけど、いろいろ考え方あると思います。副題で米子市まち・ひと・しごと創生総合戦略と副題を付けようと思った趣旨も、法律で言っております市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略であるということは明確にする必要がある。あとはどういうふうにかッチフレーズなり、そういったものの意味合いを含めてつけるかということでございまして、今日も後ほどある委員さんご提案があるように伺っていますけども、名前、キャッチフレーズ的なところとしてどう見るかということだと思います。今現在の事務局としてはこういったものをご提案させていただいているところでございます。

古賀座長：ありがとうございます。大きいという意味ですね。

そうしますと、議題1はこれをもって終わりたいと思いますが、またご発言等ありましたら次の回でご発言いただけたらと思います。

（2）各委員による地方創生の取組に係る提案について

古賀座長：それでは議題の2に移りたいと思います。

各委員による地方創生の取組に係る提案についてですけれども、2つの提案をいただいております。今回、前田委員と倉間委員からのご提案がありまして、まず最初に前田委員からのご提案について説明をお願いします。

前田委員：今回の米子市のまち・ひと・しごと創生総合戦略は、私の意見を申しあげますとよくできてらっしゃる。人口推計も非常になだらかな減少をするという形で、それを実現するために各4本柱、これだけのことをされるということをお願いにまとめられていて素晴らしいと思いました。そこにあえてもう少し欲を言えばというか、リクエストを申し上げればということで、今回ご提案させていただきました。前回申し上げたとおりですが、こういった戦略をすることで何を指すのか、そして米子の魅力をどうやって全国に発信していくのか、その部分をもう少し深めてもいいのではないかと考えて、私なりの提案をまとめてみました。米子の魅力発信を考えたときに、狙い目のポイントとしては、生活コストの安いまちというアピールポイントを作ってはいかがか、というふうに考えています。中国に世界の工場が集まったのは、生産コストが安いからでした。全国から人を呼び集めたいのであれば、手っ取り早く言えば生活コストが安いと言えるようであれば、ものすごいインセンティブになると思います。生活コストを安くする手法としてどうなのかというところが出てきたのが、「サイクルシティ米子」構想でございます。生活コストで最もかかる部分は自動車に係る経費、地方ではそういうところがございます。米子でも自動車の保有率は約1.7、全国平均1.2と比べても高いですし、東京は0.5ということで自動車に係る経費を削減できれば、相当生活コストが安くなるというふうなアピールができるんです。米子というのは平坦な地勢でございます、自転車で暮らすには非常に適している。そしてトリアスロン発祥の地でもあり、かつ東大名誉教授の宇沢先生は『自動車の社会的費用』という著書を出されまして、自動車の利用のし過ぎはいかがなものかという問題提起をなされておりました。そういった背景のある米子で自転車の利用率を高めて、自動車の利用を下げ、そういったことで生活コストを下げる、そうすれば非常に暮らしやすいまちができてくるのではないかと発想から、「サイクルシティ米子」というキャッチフレーズを掲げて、こういったまちづくりを行いますというものをどこかに飾り文句でも入れてみられてはいかがかというのが私の提案でございます。これはサイクルシティをすると何がいいかというメリットも書いてあるんですが、遠出しなくなりますので、市内消費へお金が向かうので、車の利用率を全国平均並みにすると、堅く見積もっても60億くらい経費が浮くのではないかと試算しております。60億というのはどの程度の規模かという、毎月プレミアム商品券を発行できるくらいなインパクトがご

ざいます。プレミアム商品券は1回限りで終わりますが、もしこういったような生活様式が定着してしまえば、プレミアム商品券を毎月発行するに値するインパクトがある。市内消費が増えるということで、当然働く場が創造してまいります。働く場の創出にも繋がりますし、子育て支援といったようなところ、人口流入促進、そして広域連携にもエコトラックという形で境港と結ばれていたり、大山圏域とも結ばれているわけですから、広域連携にも繋がってくる。米子のまち興しを考えていく上で、米子市って何ですか？何を目指すんですか？と言われたときに非常に生活コストが安いまちです。そしてそこに高度医療も充実していて、生活のセーフティーネットも完備されていて、「先端医療創造都市」とのリンクというのも考えております。老後でも健康でいられるにはどうしたらいいか、健康づくりという面からもサイクルシティというのは健康的なイメージがあります。「先端医療創造都市よなご」というのは非常に強いインパクトあるものだと思っておりますが、それをさらに補強する意味でも「サイクルシティ米子」といったような表のイメージ、こういったものを発信していかれることが重要ではないかと思っておりますので提案させていただきました。これを行うことで、市内消費が活性化してコンパクトシティが実現し、エコにも健康にも貢献するということで非常にいいまちづくりが行われるんじゃないかと考えております。そうした形で市内消費が活性化すると、その先何が開けてくるかという、米子市というのは実は美人が多くて、ビューティビジネスが盛んですという「ビューティタウン米子」といったようなアピールにも繋がってまいりますし、昔は商都と言われていましたが、今はいろんなイベントが公民館やコンベンションセンターで行われている。魅せるまち、商うまちから魅せるまち「Show 都米子」というこうしたアピールもできてくるのが可能かと考えております。そういった意味でまち興しの横串を刺すコンセプトとして「サイクルシティ米子」といったようなこともご検討の一環に載せていただければと考えました。

そして最後に先ほど出ました、「がいな米子」のPRが効くのかという問題意識かと思うんですけど、私もそこは感じてしまいました。「がいな米子」と全国に言ったところで、なかなか分かりにくい。アピールするときは、「米子がいな戦略」という略称を用いてはいかがでしょうか。こうすると3つ意味を持たせられます。米子は人口15万人規模を10年続けているというのは全国でも稀有な自治体です。これは実はものすごいアピールポイントです。米子の今の規模は最適であって、これは非常にすばらしい。ですから、私たちはその規模を維持します、そのための戦略です。等身大の発展を目指します。等身大それは「米子大」。だから「米子がいな」戦略とこう繋がります。2つ目は米子で切って、がいな戦略。米子の大きな戦略、それは近隣地域との結び付いて広域連携で発展してまいりますと、そのための米子の戦略、それが「米子がいな」戦略と言えます。そして3つ目が文字どおり「米子がいな」戦略ですね。「米子がいな」ということで米子がいいなということに繋がります。これでしたら古賀座長も分かってもらえると思うんですが、「米子がいな」戦略。米子はとてもすばらしいまちですので、これだけの戦略を採ることで皆さんから米子がいいなと思ってもらえるようなそういった戦略ですので、「米子がいな」戦略です。トリプルミーニングなんですね、3つの意味があります。ですからこれもぜひアピールしていきたいんですが、売っていくときの略称は「米子がいな」戦略で売っていただくと非常に通りがいいんじゃないかと思っておりますのでご提案させていただきました。

古賀座長：前田さん、ありがとうございました。とても分かりやすい内容でよかったなと思います。米子

がいーなということで、ちょっと変わってしまうかもしれませんが。

前田委員：米子がいな祭っていうのもありますからね。

古賀座長：そうですね。前田さんからのご発言で、自動車の文化から自転車の文化へということで具体的なご提案をいただきました。私共鳥取大学附属病院で考えているのが、特に健康づくりという意味では自転車というのは非常にいいということで、いろんな運動になるんですが、例えば足腰に負担があってなかなかジョギングはできないけれど、自転車はできるとか、そういう形でもしかすると、自転車というのは健康づくりに活用するととてもいいんじゃないかと、そういう複合的な意味合いを持ってここで根付かせていくということができれば、とてもいいまちづくりのひとつとなるということを思いました。このご提案につきまして皆さんご意見をいただきたいと思います。なおこの有識者会議ですけれども、この会議の中で案をまとめるという格好の会議ではありませんので、皆さんからのご意見を発言いただいて、市の施策の方に反映していただくという格好ですので、そういった意味合いでご発言いただきたいと思えます。

みなさんご意見などありますでしょうか。

もしこういった「サイクルシティ米子」というのを根付かせるとしたらどういう形がいいのかっていうのを考えるんですけど、イベントみたいな形で何か自転車の競争会みたいなもの、例えばご高齢の方限定の会とかそういった形でやっていって賞をあげるとか、そういうようなことができると思うんですが、そういった取組ってというのはどうでしょう？

前田委員：そういったイベント系もよろしいと思います。実際すでに皆生トライアスロンで去年は65歳の商工会長さんが参加されていたとかすごい話を伺っていますので、それだけすごい取組が地域で行われているんですね。それがなかなか知られていない。そういったところもう少しコンセプトを固めて情報発信していく。そういったような取組が必要です。今日市の方の前でお話するので申し上げておきますが、極力財政負担をかけないということは肝に銘じておりますので。そのつもりでいるということをご理解いただけたらと思います。

古賀座長：ありがとうございます。あと一方で課題として挙げられる部分もあると思うんですね。私も自転車通勤しているんですけども、特に梅雨の時期ですとか、雪の時期、自転車が使えない時期ってけっこうあると思うんです。その辺のところのインフラ整備というのも必要になるんじゃないかと思えますがいかがでしょうか？

前田委員：それはおっしゃるとおりなんですけど、私も考えてみたんですが、ある種の公共交通とのリンクとか自動車の利用率を下げるのであれば、カーシェアリングですよ。そういったものも出てくるかと思えます。最初に申し上げればよかったんですが、基本的な考え方としては、これからどうしても人口が減っていく、経済が縮小していく、その中で地域が生き残っていくには、どうしても節約と助け合いの文

化といった発想が避けられないはずで。ですから、生活の中で節約できるものは節約して、お互いを助け合うことで地域というものを維持していきましょと、これをみなさん基本認識として持つべきです。そうした中で車が1家に複数台あるというのは、いくらなんでもじゃないかと。東京は保有率0.5ですよ、東京が豊かに見えるのは車を持たないからじゃないんですか、と突っ込んだ言い方もできるんです。地方だってその辺を節約できれば、東京よりもよっぽど豊かな生活が送れるんですよ、ということを実際にやってみせて全国に情報発信できれば、ものすごい人口流入の誘引になると思います。

古賀座長：なるほどですね。その他ご意見などありますでしょうか？

森田委員：自転車の話とてもいいと思うんですけど、先週ヨーロッパに行くことがありまして、鉄道に乗りましたら、あちらの方は自転車を持ったまま鉄道に乗るんですね。お金払って自転車も含めて、このところの暑さを考えると、なかなか常に自転車に乗っているということは厳しいですから、例えば市のバスとかですね、こういったところに自転車を載せられるような部分をですね、この辺じゃあんまりないと思うんですけど、JRは難しいんじゃないかと思えますけど。傘を必ず持ってなくちゃいけないというくらい突然雨が降ってくる時期もあります。そういう時のためにも自転車の普及促進であれば、そちらも合わせてやるとよりいい内容になるんじゃないかと思えます。

古賀座長：ありがとうございます。確かにバスに自転車を載せられるようになれば違ってくるのかなと思います。あと私も東京都心、横浜周辺に住んでいた経験からあちらの方が山、坂が多いんですよ。ですから、自転車っていうのかなかなか向かないんですけども、米子っていうのはほとんど坂がないということで、自転車で過ごしやすいまち、そういうような発信もできるんじゃないかと思うんですよ。ですので実践的にまちづくりとして健康づくりも含めたまちというの情報発信していくことで、住みよいまちというのうまくPRできるんじゃないかと感じました。その他ご意見ございますでしょうか？

齊木委員：今のこの自転車でというのがどの程度なのか分かりませんが、女性の立場から言わせていただくと、かなり生活圏が変わってくるなというのと、毎日の食事の準備などの買い物というのを女性の立場から考えると、そんなときショッピングセンターが大型化して郊外にあって、どうしても車での買い物になってしまいますし、そういったことを考えていった時に、若いうちなら自転車である程度のところまで行けますけれども、だんだん歳をとったときにやはり生活圏のことを考えたときに、その辺りの近所にショッピングセンター大きなものでなくてもいいですが、小さいものでもないと助かるんですが。時々私、車で倉吉まで通っていると、9号線あたりなんかでポプラとかそういったコンビニエンスストアが閉店しているんですね。そうするとここにあったポプラがない、何とかがないということになりますと、それが地域の人たちにとってはある程度の生活の場であったり、小さい子どもたちにとってのそれがあったのがなくなってしまうと、どうしているんだろうなということを考えたりしますので、女性の立場からの生活圏、子どもを幼稚園・保育園に通わせるときにお父さんなりお母さんが自分が職場に行く途中に子どもを運んで行

って降ろしていくということもあつたりすると、今度は幼稚園や保育園がスクールバスを持っていて送り迎えしてくれるのかしらとか、今そういった施設が近くにできるといいなということにも、なんとなく生活圏が少し変わってくるのかなというのが女性の立場から思います。

古賀座長：ご意見ありがとうございます。確かに生活圏を支える、商店等の整備というのが進まないとなかなかそういったことが実用化できないという側面がある。市の施策の中での取組例の一つとしてC R Cの高齢者の住環境っていうのを考える上でも非常に重要なことでありまして、そういった活動範囲が狭くなってしまったご高齢者に対して、いかに住みよいまちを作っていくかということにも関わってくださると思いますし、非常に重要なことだと思います。

前田委員：ひとついいですか。実はそこ説明が不足していた部分ですが、私的には時系列逆に考えていまして、先ほど申し上げたことで、自動車の利用率を下げることで、生活コストが年間60億以上浮きますよと、それはどこに向かうんでしょう。自転車にすれば、生活圏狭まりますよと、自転車に乗って県外のモールに行くとかいうのはそうそうないです。であれば昔の商店街の方向に向かってもいいんじゃないでしょうか。ですから、市内消費を活性化して、かつての商店街を復活させる。そのための起爆剤としても「サイクルシティ」構想使えるんじゃないかということで自転車利用者の方のための商店が身近にないと困るではないかと、やっぱり商店街必要だよと、こういう気運を盛り上げて商店街が復活する底力とする。今まではただ個人商店の努力に頼っていたんですが、実はこういった構想で全体を動かしていくことで人の流れが変わる。生活圏が変わる、昔の商店街が復活する、こういった効果を考えています。

古賀座長：それはとてもいいことだと思います。米子駅前のシャッター街を見ていると、こういったところの商店が復活してくるといのはすごくいいことだなと思いました。

中元委員：今言われたことにも繋がるんですが、今どうしてもこの都市、まちですね。同じようなまちで、同じような店があつて、同じような取組っていうのが多いんですが、自転車を活用することによって近場に商店を復活ですよ。個人商店でもたくさんできたりすると人と人の触れ合いとか、そういったことも出てきますので、それこそ人のことを考えることができる環境づくり、そういった面にも繋がるというふうに私も共感しておりまして、たまたま青年会議所の方でも9月に自転車で中海を1周するというような事業を行います。こちらの方は県の方とか道路にもサイクリングコースみたいな・・

古賀座長：ありますね。米川沿いにサイクリングコースが設定されていますね。

中元委員：橋渡ってずっとそういったコースがあるんですね。簡単に乗れるコースなんですけど、そういったことで車ではなくてゆっくりと自転車で行くことによっていろんな気づき、環境に関してでもですし、人の生活、そういったものにも気づきが得られるというので、自転車というのは大変いいものだと思うており

ます。先ほどヨーロッパの話もありましたが、ヨーロッパの方でいろんな自転車が開発されています。日本だとそんなに多くの種類の自転車っていうのは開発されてないんですが、そういったものでまた米子高専さんだったり、そういった企業ができて新たな産業にも繋がる、という考えがございますので、全部自転車でやれてっていうのはなかなか言えないんですが、いろんなものを組み合わせながらやっていくことによって、いろんな効果が生まれるものと思っています。

古賀座長：ご発言ありがとうございます。私も週末自転車で境港までサイクリングロードをずっと走っていたんですけど、自転車に乗っていると見逃してしまうところがスピードが遅いので目につくんですね。そうすると、こんな店あったんだ、寄ってみようというようなことになるんですね。生活圏の見直しと云いますか、そういった効果があるのかなという気がします。

山上委員：今自転車の話で大変盛り上がっていますが、前田委員の提案というのは非常によく、できたものを批判するのは誰でもできるんで、こういう発想ができるということは大変すばらしいことだと思います。メリットだけ書いてあるんですけど、デメリットまでとは言いませんが、負の反応を考えなければいけないということで、この前田さんのところのメリットというのは年間60億の生活コストの削減できるということで、市民の生活コストを下げることを目的とするのか、あるいは自転車というのはとても健康にいいので、健康増進のために市民のみなさん自転車で乗りましょうと呼びかけるのか、それはかなり違ってくると思うんですよ。その地方創生のテーマの中でも違ってくる。私何が言いたいのかと申しますと、都会の方と比べてかなり保有率が高いということをおっしゃっていましたが、それは米子のこういう地勢であるから、公共交通機関がないので、公共交通機関に頼ってやっている都市部はいいんですけど、車に頼らざるを得ない米子市はどうしても1家に2台くらいはあることも考えられるでしょうし、そういうことも考えなくてはならない。それから私どもの取引先に自動車関連の業種も多いということで、例えばガソリンスタンド、車のディーラー、板金塗装、車の整備士、こういった方も米子市で生活しています。こういう方の収入はどうするのかということを一方では考えなくてははいけないということで、発想自体はとてもいいんですが、いろいろ解決しなければいけない問題があるということで、提案は提案として米子市さんに投げかけていくことになるんですけど、そこはいろんなメリット・デメリットとして総合的に判断していく、どのターゲットにどう絞って、何がそれによって効果をもたらされるかということを慎重に検討すべきだと思います。

古賀座長：ありがとうございます。おっしゃるとおり、実際にこれを進めるにあたっては不利益がある方もいらっしゃるし、その辺はバランスをとって考えていく必要があると思います。

その他ご意見などありますでしょうか？

よろしいでしょうか。そうしましたら、倉間委員からのご発言をお願いいたします。

倉間委員：私の方から3点ご提案させていただきたいと思います。最初に今回の政策Ⅰに入ると思うんですが、創業支援センターの設置ということで、昨年度、創業支援につきましては産業競争強化

法に基づいて、創業支援事業は米子市さんが中心となって西部の市町村で共同申請して認定を受けております。こういったことで相談体制はできているところですが、これまでも相談者からどこに相談していいかわからなかったという声をよく聞きます。普通でしたら、私達の考えでしたらすぐ商工会議所、商工会に相談すればいいと思うんですが、やはりそういったことを知らない方はまずどこに相談していいのか、お金のことなら金融機関さんに相談したらいいんでしょうけれど、まず入り口としてどこに行ったらいいんだろうかというような声を聞いたことがあります。そういうことで創業支援に特化したそういう相談窓口で以下の業務を目的とした鳥取県内初、町村内では初なんですけども、「米子市創業支援センター」の設置を提案します。主な役割ですけど、ここに書いておりますけど、まず①関係機関との連携。例えば商品開発をしたいという相談があれば産業技術センターであるとか商品開発研究所、資金調達のことについては金融機関さん、ビジネスプランの作成をしたいということであれば商工団体の方への橋渡し役としての役割。②米子市内の事業所とのマッチング支援ということで、なかなかどこからものを仕入れていいかわからない、どういふふうに販売していいかわからないという相談に対して、そういったマッチングを市内の業者とすることによって地域内で資金が循環できるんじゃないかというふうに思っております。③事業承継と書いてありますが、帝国データバンクでの調べによりますと、鳥取県の後継者不在率というのは全国ワースト5に入るということで74.4%の事業所が後継者不足というところで、米子市の後継者不在率というのはわからないところなんですけど、74.4%よりは低いんでしょうけれど、かなり高い確率で後継者の方がおられない事業者が多いんじゃないかというところなんです。そういった事業承継したいという人と、創業予定者とのマッチングを支援していくというようなことや、米子市内に空き店舗がたくさんあると思いますので、そういった空き店舗を紹介していくということや、市や県が主催するU I J ターンの説明会において米子市への創業支援をPRするとか、創業者へのフォローアップ支援を行っていくということからすればいいんじゃないかと思っております。それに関わる創業者支援の施策ということで、これまでよく相談を受けるんですけど、自己資金の不足で国の補助金を活用される事業者さんが多いんですけど、国・県の補助金は充実しているところなんですけど、米子市での創業者をさらに増やしていくには、米子市独自の創業支援施策を創設することで、米子市の人口及び雇用増加や地域産業活性化に繋げることが可能だと思います。例えば①に書いてありますように、米子市に移住定住して、米子市で事業を行う創業者②に米子市の地域資源を活用し商品開発、販路開拓事業を行う創業者に対して、例えば住民税を減免するとか、設備の補助をするとか、空き店舗の入居家賃補助をするとか、国・県の創業事業に使われる自己負担部分の2分の1を補助するとか、地域資源を活用する場合、その商品開発、販路開拓費に伴う経費補助をするとか、雇用に関する助成があれば米子市への創業が増えていくんじゃないかと思っております。

続いて、インバウンドによる交流人口対策ということで、山陰地方では石見銀山の世界遺産登録であるとか、出雲大社の遷宮、松江城の国宝化といったところで非常に山陰地方でもいろいろ全国から注目を集めて、観光客などの交流人口が増えています。境港の方には海外から大型客船の就航が増えており、停まった時には大山や足立美術館の周辺の観光地や大型ショッピングセンターなどにツアーが組まれています。そういった中で米子市は少し取り残されているような感じで、米子市は本

当に通過点になってしまっていて、せつかくのチャンスを逃しているような気がします。今後米子市の交流人口を増加させるために、次のような取組を提案します。最初に大型観光客船での対応ですが、こちらの方につきましては本当に受入態勢ということも考えることも必要なんですが、例として市内の社会科見学ツアーということで、お菓子の壽城など見学可能な工場をめぐるツアーですとか、長旅ですのでゆったり皆生温泉で味わう山陰の味満喫ツアーというようなツアーを組まれてはというふうに思っております。②に米子市に「道の駅」の設置ということで、現在米子市には道の駅がございません。山陰道が整備されている中で、市内を通らないで松江や出雲、鳥取へ出向くというのを目的とした自動車が増えてきています。観光誘客や産業振興面を含めた経済の活性化策として山陰道沿いに「道の駅」を設置し、特産品の販売や観光PRを行うということを書いてありますが、なかなか山陰道沿いといいますが場所がないというところで、私個人的なんですが、お菓子の壽城の周りに道の駅があれば、あそこは集客力がありますので相乗効果によって賑わうのではないかと考えております。そこで米子市の特産品の販売及びPRということで、米子市はふるさと納税制度で特産品がいいということでマスコミなどで注目を浴びようになってきています。道の駅で米子・淀江漁協の朝どれ魚介類や、地元農家の朝どれ野菜など新鮮な農水産物をそこで販売できれば、地域産業の活性化につながるのではないかと考えております。

次に米子市の観光PRですが、米子市内には弓ヶ浜、市街地、淀江町をエリアとしたいろんな観光名所、施設がありますけれど、残念ながら米子市には県外から多く集客できるような核となる施設がないのが現状ではないでしょうか。なかなか新規に集客力のある観光施設などを作ることは難しいことなので、先ほどもありましたけど、中海・大山圏域で連携して趣向や世代に合わせた体験型観光をすれば、米子市の良さが分かってこちら住んでみたいという人も増えてくるのではないかとというふうに思っております。

3番目に健康増進と温泉のまち米子市ということで、米子市には皆生温泉があり、市内には大学病院をはじめとする総合病院が数多くあります。鳥取大学や市内の病院と皆生温泉が連携した人間ドックなど「健康増進と心を癒すまちよなご」としてのまちづくりを提案いたします。例えば地元食材を使った薬膳料理と人間ドックをセットとしたプランとか、利用者に米子市特産品購入品券プレゼント、「また来てごしない皆生温泉がいな宿泊割引券」などの特典があれば、皆生温泉に人がたくさん来られるのではないかとというふうに思っていますのでこの3点提案させていただきました。

古賀座長：倉間さんありがとうございました。以上3つのご提案でございましたが、皆さんご発言などありますでしょうか？

齊木委員：1番の創業支援センターの設置ということなんですが、鳥取県立図書館の方で起業支援という形のコーナーを持っていたり、そういうことを考えている人へのセミナーもそこで開催されているようなので、ここに関係機関との連携というところで、商品開発とか資金調達というようなことがありますが、県立図書館ですとか、もしかしたら米子図書館でもされているかもしれませんが、県立図書館でセミナーなども開催して支援をされているので、そういったところの連携も考えていくということもひとつ

の方法ではないかなというのを思いました。

古賀座長：ありがとうございました。

但馬副座長：先ほどのインバウンドの対策の話がありまして、クルーズ客船等で来られた方が市外に流れていくということがありましたけど、来られた人がツアーでどこか行かれるっていうのはそういった旅行会社とかツアーガイドさんが通訳をされてご案内されるというところがあるかと思いますが、そうじゃないフリーのお客さんとかもいらっしゃるんで、そういった方を当日バスツアーとかで市内に誘導していくっていうのもひとつ考えていかなければならないことだと思ったりするんですが、その時言葉の問題というのが出てきますのでその時に、今通訳っていうのが、試験に合格して県の登録をしていないと有償でガイドはできないというのがあるので、そこまでいなくても無資格だけど有償でガイドができるためには特区の申請をしていけば、特例通訳案内士というのができるかと伺っていますので、もし総合戦略の中でインバウンドのお客様を呼び込んでいくということがありましたら、特区の導入ということもご検討していただけたらなと思います。

古賀座長：ありがとうございました。特区の申請をしてガイドの資格というものに対して規制の緩和をしていくという動きというのも一案ではないかというご意見でした。その他ご意見ありますでしょうか。私達鳥取大学でも、先ほど少し触れました発明楽といった授業を含めて、イノベーション創出の大学院コースを昨年の10月からスタートしました。その中でアントレプレナーシップ（企業家精神）の授業などをして、いわゆる起業家を行う人々に対する支援といいますか、指導を行ったりしています。あるいは私達がこれから医療機器を開発できるような企業さんを育てていって、そういった企業さんに再度ビジネスチャンスとして私達鳥取大学医学部附属病院との共同研究というのも進めていくという形もあるかと思います。そういう意味で米子の創業支援センターといったものを作っていくということは意味深いのではないかなと感じました。

何かご意見ご質問などありますでしょうか？

今2人の委員からのご提案がありましたけど、その他少しまだ時間がありますので、10分程度で何かご意見ご発言などありましたらお願いいたします。

但馬副座長：米子市の地方創生総合戦略を作られるにあたって、これに関連して商工会議所として事業をしていくことは今後必要だろうということで、会議所の中にプロジェクトチームを作りまして取り上げていただける内容というのを検討してまいりました。その中で会議所で米子市のイメージといいますか、そういったものをいくつか拾い出してみまして、そのキーワードを元に現状分析ですね、類似都市とか経済圏とかの枠組みの中で分析をしていきました。そしてひとつのソート分析を行いまして、進むべき方向性と言いますか、事務局のプロジェクトの考えといたしまして、戦略マップというものを作っています。その中で2つ進むべき方向性があるんじゃないかということで、1つは医療を活かす、もう1つは交通利便性を活かすというのが、この米子の特徴ではないかということで結論づけています。この医療

を活かすという事は、米子には鳥取大学医学部と附属病院というのがあります。試算ではこの附属病院の米子市への経済波及効果は231億円という試算をしております、これには医学部とか学生が消費するお金が含まれていないということで、非常に大きな影響力を持っておられるということがございます。ですので、ここの米子市に医学部と附属病院があるということの存在価値を認識していくことが必要ではないかと思っております。その中でほかにも鳥取大学の医学部につきましては、ダヴィンチというロボット手術というものを行っておられまして、国内でのリーダーとなっておられますし、古賀先生いらっしゃる次世代高度推進センターのほうで、地元の企業さんと附属病院が一緒になって鳥取医療福祉機器バレーという構想を進めておられようとしておられます。それから鳥取バイオフィロンティア事業ということで、バイオ関係の人材育成にも取り組んでおられるような現状もございます。この地方創生総合戦略の中にそういった強みを活かしたことを取り入れていただきたいということで、1つは医療福祉機器の人材育成、人材確保を図るための方法といたしまして、米子には高度教育機関といたしまして、米子高専さんがございますので、米子高専に医療工学専攻科の設置をされるよう、関係機関の方に働きかけをしていただけないかなというように思っております。それが医療福祉機器バレーでの人材育成、あるいは人材の補給といいますかね、育てていくということにつながっていくのではないかと思っております。それからもう1つは医療福祉機器バレーを進めていくにあたりまして、そういった医療福祉の関係機関とか、附属病院の方等がでもいつでも気軽に集えるような場所といいますか、インキュベーションの機能を含めた知の集計拠点のようなものがあつたらいいのではないかというふうに思っております。それは郊外にということではなくて、附属病院の近く徒歩圏内にそういう施設があればいいとひとつ提案させていただきたいと思っております。できれば中心市街地の近辺に作っていただければ、市街地の活性化にもつながっていくのではないかというふうに思っています。

それからもう1つは交通利便性を生かした地域振興ということで、米子市は交通の結節点となっていることは先ほどの倉間委員さんの方からもありました。ただ通過点になるのではないかということもございましたけれど、ここは陸・海・空・高速バスとかそういったことも含めまして、一旦はここを通るものありますけど、ここが終点となっているものもありますので、そういった米子市の強みを活かして、ここから米子市が圏域への観光も含めて、ポータルになる場所ではないかと思っておりますので、米子市を拠点とした2次交通の整備を行っていただくように、この総合戦略の中に取り組んでいただけたらと思っております。それと併せまして、米子駅の北口にありまして、地下駐車場の整備といいますか、活用の方も考えていただけたらと思っております。例えばパークアンドライドという方法もございますし、地下駐車場を使って、JRを使ってどこかに行く場合は、駐車場の割引ができるとか、そういった活用方法はあると思っておりますので、そういうものを検討していただけたらと思っております。

古賀座長：ありがとうございます。

山上委員：1点だけお願いなんですけど、この前も新聞で新たな工業団地の候補の話がでていて、米子市は今流通団地もいっぱいになり、崎津もあういう状況ですので、新たな工業団地を探しているという記事が出ていましたけれど、ぜひその方向で進めていただきたいと思っております。と言いますのが、

私も毎日地元の企業を訪問していると、リーマンショックの時のどん底をくぐりぬけて、やっとなんか最近、お客様も前向きに投資を考え出すような雰囲気が出てきました。そんな中で工場が手狭で郊外に千坪、2千坪の土地が欲しいという時に、あるいはそういう場所が調整区域だったり農振にかかったりしてなかなかお客様のニーズにマッチしないということがありますので、誘致企業も含めて、米子の中小企業のために新たな土地の確保。経営者の方がかなり前向きになってきていますので、そういう時期に市としても積極的に土地の取得等の支援をお願いしたいと思います。併せて、調整区域等で例えば倉庫なら大丈夫だけど、組み立て工場はダメとか、組み立て工場はダメだけど、LEDの工場ならいいよみたいな、かなり規制もありますので、その辺でできれば緩和していただいて、中小企業の方が事業を拡大できるような施策を市としてもぜひ採っていただきたいと思います。

古賀座長：ありがとうございました。今、但馬副古賀座長さん、山上委員さんからのご発言がありましたとおり、人材育成に関する米子高専の新しい専攻科の設立に向けての支援、それからインキュベーション施設として医療機器等の開発拠点として多方面から企業が集まれる、そういった集積拠点があつた方がいいんじゃないかというご発言。それから、交通の要衝として2次交通の整備、拠点としての整備というのが必要であろうと。あるいは米子駅等の施設を活用して交通の利便性を活かした、拠点化というのはできないのだろうか。それから、山上委員さんからありましたように、工業用地としての土地の確保についてのご支援ができないだろうかというようなご発言でした。これに関して時間的なこともありますので、2人くらいから何かご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか？

岡村委員：先ほど商工会議所のほうからご発言いただいたことは大変いいことだと思っていますし、私も支持したいと思っています。この会議の中、活字としても出てきていますが、C C R Cというのがこの戦略のひとつのキーとなるんじゃないかなと思っています。6月に行われました日本創生会議、東大の教授が座長になって行われた会議で、東京圏もこれから高齢化が進んでくるということが重要な問題になってきています。その受け皿として地方への移住ということが言われておりまして、その中で日本全国の中で、ある程度医療と介護の受け皿として余力があるエリアというところで、米子市が拳がっているんですね。ひとつこのC C R Cというところを盛り込んだ戦略の策定というのが必要になってくるんじゃないかと感じていますし、人が増えれば消費も増えていきますし、新しい産業も興ってくるといことも可能性としてはありますので、米子市さんの戦略・骨子の中でもC C R Cの研究ということが謳ってありますけど、今どんな研究段階のフェーズにあるのかということも興味深いんですけど、そういったことを軸に戦略策定いただけるといいかなというふうに思っています。まち・ひと・しごと創生法って今までのお金と人の流れを逆転していこうというのが、ひとつ荒っぽい言い方をするとあると思いますので、今までにない発想でこういったところも検討いただけたらより良い戦略を作っていけると思います。

古賀座長：ありがとうございました。C C R Cについてはまた次回、もう少し掘り下げてお話をさせて

いただければと思っております。

その他ご意見などありますでしょうか？

よろしいでしょうか。それでは今日摘み残したことにしましては次回8月12日の課題として進めさせていただきますとおもいますのでよろしくお願いいたします。

（3）今後の予定について

事務局から説明

4. その他

事務局から次回開催について説明

5. 閉会